



特色ある学校づくりサポート事業報告

須賀川市立西袋第二小学校

1 事業の名称

「児童一人ひとりに確かな基礎学力を培うための小・中連携並びに小・小連携の充実」

2 事業実施の背景と学校経営との関連

(1) 「須賀川市教育委員会学校教育の重点」の具現化から

確かな学力の向上

授業の改善・充実...	「わかる・できる授業」の設計・実施・評価
学びの基盤づくり...	補足的な学習の場の設定と内容の工夫 家庭学習習慣確立のための学習サイクルの形成 豊かな読書活動の工夫
小・中の円滑な接続...	小・中の授業交流、授業研究 学び方の指導の連携

(2) 保護者・地域住民の学校教育に寄せる信頼と期待に応えるために

新しい教育課題について、基礎基本の学力の充実とともに取り組む。

中学に進学しても、一人ひとりが持っている力を発揮して、中学校生活を Enjoy できるようにしていく。

(3) 本年度 本校教育活動の重点から

「確かな基礎学力」を培う教育指導の充実

基礎基本の徹底・習熟

学びの基礎となる構えのづくり

授業力・資質を高める研究の推進

算数科学習指導方法の研究を通して、わかる授業づくりを目指す。

算数科学習指導方法の研究を通して、評価の工夫を行う。

豊かな心を育む「心の教育」の充実

異年齢児童の活動や交流を通して、好ましい人間関係の醸成を図る。

児童理解に立ち、児童一人ひとりを大切にした生徒指導の推進

「開かれた学校づくり」の一層の推進

本校教育活動に対しての学校評価の充実

学校教育活動についての情報発信（ホームページの随時更新）

家庭や地域社会との連携

小・中連携、小・小連携の充実

学習公開行事の地域並びに西袋地区学校への公開
と日常的に開かれた学習参観



3 小・中連携、小・小連携の基本的な考え方

ねらい

小・中9年間の学びの中で「基礎・基本の確実な定着」を目指しわかる授業の展開、楽しい学校の実現を図る。

小・中教師による交流授業、相互参観等を通して、学習指導法の工夫・改善を図り、教職員の資質向上を図る。

児童・生徒間の交流学习、学校行事、特別活動等での交流活動の展開を通して、西袋地区内の教育の向上を図る。



社会的自立



西袋中学校

小・中学校間の連携促進・接続の円滑化

...小・中学校間の交流を深め、中学校入学への不安を解消する。



学習指導面から・・・

学習内容の系統性を踏まえた指導
学習習慣の確立
専門性を生かした指導

西袋第二小学校

生徒指導面から・・・

「基本的な生活習慣」の定着
「生活のきまり」の連携
児童・生徒間の交流

西袋第一小学校

研究組織

3 校長連絡会

小中連携運営連絡会

教頭、教務主任

学習環境部

学習環境の調査研究
・発表力、言語力の育成
・基本的な学習習慣の確立
家庭学習の習慣化
・家庭学習の手引きの各校すりあわせ
・基本的生活習慣の育成
各校の現職教育主任

西袋第二小学校

学習交流部

中学校体験授業
小学校による総合交流授業
カリキュラムの調査と各種学力テストの分析
・新学習指導要領移行期間への対応
・総合学力テストの分析
各校の教務主任

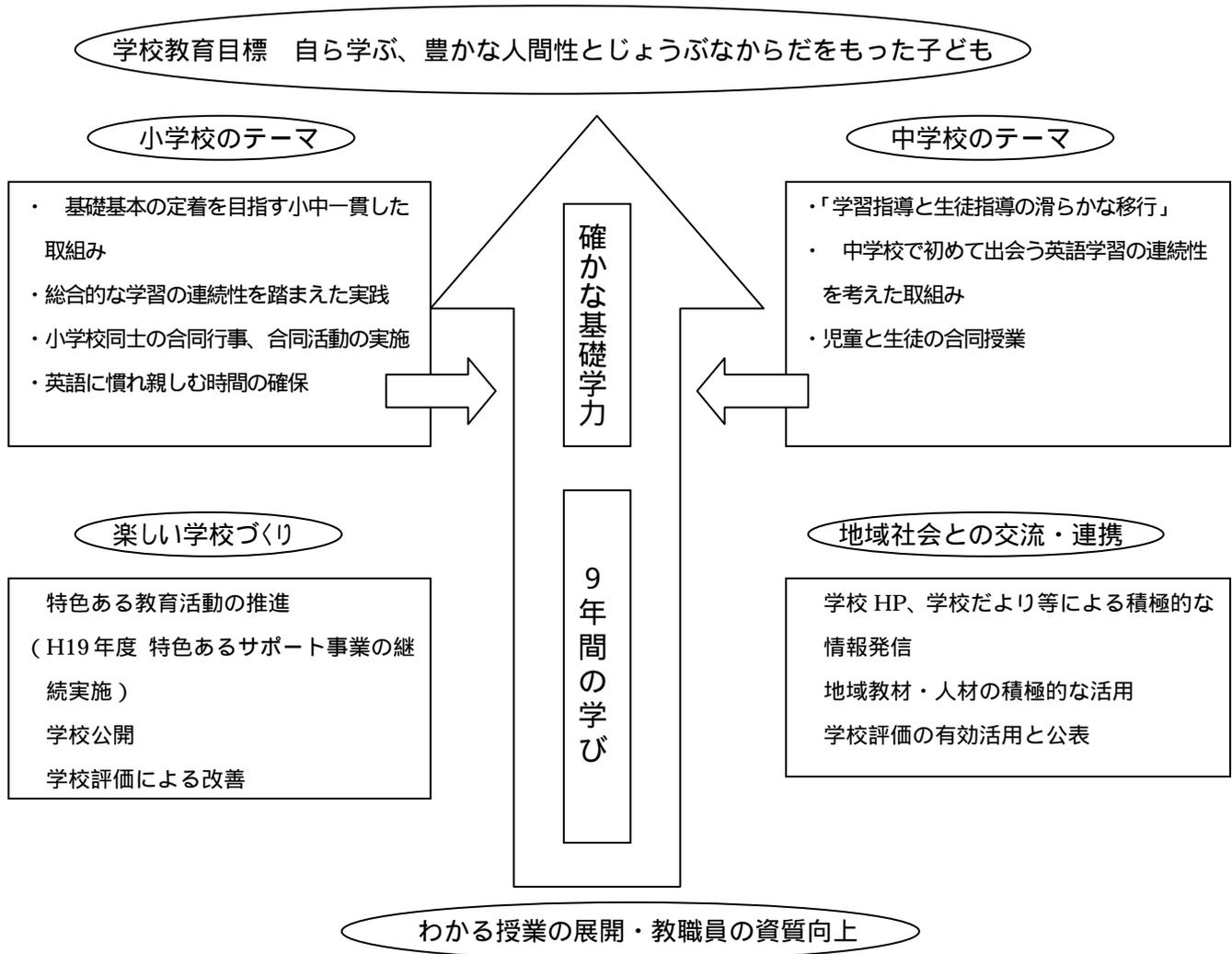
西袋中学校

生徒指導部会

情報の共有と協働体制による実践
・不登校への支援と未然防止
・児童虐待等の情報共有
特別支援教育の推進
各校の生徒指導主事

西袋第一小学校

4 事業展開の具現化と事業の実際



事業の実際

・ 個に応じた指導

児童実態の的確な把握（学力テストの実施、分析、記録のデータベース化）

（長期的、短期的な2面から学力を分析する）

各学年でつけたい力（基礎・基本）を明確にする。

基礎基本の学力をつけるため、授業の充実を図る。（1人2回の研究授業の実施）

・ 小中での指導者の交流・合同授業

部会研修での成果を校内に広め、教育実践の充実に生かす。

各学校間の授業研究を公開する。

小・中教師の交流指導

・ 「チャレンジタイムの充実と学力補充の時間確保」

算数全般の学力向上を図る。（授業が分かるための準備の時間、授業で学んだことがわかる、できるための習熟の時間、授業で学んだことを確実に定着させるための時間の充実）

朝の読書...各学年に応じた本にチャレンジさせる。

保護者・地域の学習ボランティアと連携する。

・「生活習慣づくりと家庭学習の充実」

基本的な生活習慣を見直す。家庭と連携した生活づくりの取り組みをする。

家庭学習について（「家庭学習の手引き」の活用）

・「中学校教科「英語」へのスムーズな移行を図るための外国語活動の取組み」

小学校間のカリキュラムの共有

ALTを中心とした英語活動を充実させる。

・「小中連携教育課程づくり」

小学校間の交流授業。中学校での体験授業、部活動体験。

英語出前授業。

教務主任同士の連携

5 成果と課題

（１）成 果

指導法の工夫改善について

研究授業を通して、教師相互の連携を深めることで、指導の在り方を反省し、課題を明らかにすることができた。

小学生は、中学校教師が行った授業は楽しかったし、わかりやすかったと答えている。

交流を通しての教職員の資質の向上について

小・中相互の公開授業・相互参観を通じた意見交換等の場を設けることで、互いの見地から指導の見直しと課題の意識化が図られ、日々の授業に生かすことができた。

交流を通して児童生徒理解を深めることができた。また、それぞれの学校の実態や特色をより身近に理解することができた。

小・小の連携について

少ない回数ではあったが、交流を通して中学校進学時の不安などが軽減し、期待と希望を持つ6年生が増えた。

（２）課 題

小・中連携、小・小連携を考慮した様々な事業は、連携を通して「児童生徒にどのような力を育成したいのか」を見据えることが大切になってくる。そのため、何が実施可能で、何が継続可能かを反省・評価をし、実のあるものとしていく必要がある。

継続して実施していくためには、小・中教職員の相互理解は言うまでもなく、保護者・地域及び関係機関とのなお一層の緊密な連絡体制を構築していく努力が必要である。

